

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

高松市立木太中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
8学級 282名	7学級 267名	7学級 253名	2学級 9名	24学級 811名

○教員数 46名

◆学校の特色

本校では、生徒は落ち着いた態度で学校生活に臨み、生徒や保護者の学習に対する関心も高く、学習塾等で学力補充を行っている家庭も少なくない。しかし、授業では学習内容が十分に理解できないことに起因する学習意欲の格差が見られたり、生徒同士が関わり合い、互いに高め合うという学習場面の設定が十分でなかったりしたため、学級全体の学力が向上していかない現状があった。

そこで、平成28年度より、生徒自身が自分の考えを持ち、互いの考えを伝え合い、発展させるような活動や、それに対する学習支援として「木太中 協同学習」を取り入れることとした。そして、「わからないことがわかった」、「できなかったことができるようになった」という体験をもとにした「もっと知りたい、学習したい」という学習意欲を高めるための授業づくりを進めてきている。

II 研究主題等

研究主題

生徒の学習意欲を高めるための授業づくり

～ 「できた」「わかった」が実感できる協同学習を目指して ～

◆研究主題設定の理由

生徒同士が関わり合い、互いの学習意欲を刺激していくことで、「できた」「わかった」という成就感を高め、さらに自ら学びたいと感じられるような授業づくりを目指したい。そのためには、ペアや小グループでの学び合いを取り入れ、授業を通して生徒の能動的な学びを深めたい。また、学び合うことで信頼関係を築き、支持的な風土を作り上げていく。温かい雰囲気の中で、個々の生徒がお互いを理解し、さらに良い関係を結んでいくことで、学級全体の学力向上につながれると考え、本研究主題を設定した。

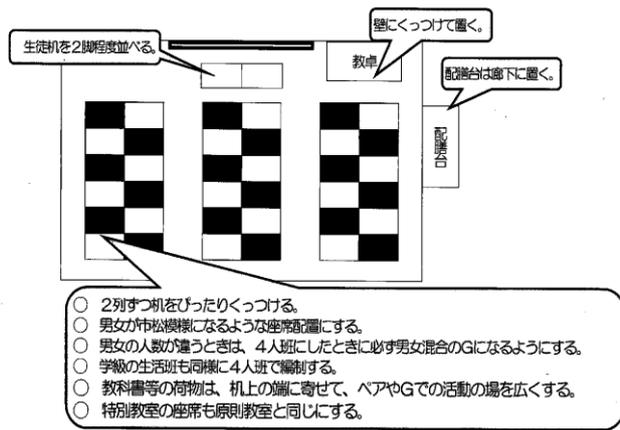
生徒一人ひとりがそれぞれの目標を達成できるように、学級全体が互いに助け合い、学び合う。そのような環境づくり、場面設定を授業に取り入れ、生徒の実態に即した協同的な学習のあり方を見いだしたい。

◆研究内容及び方法

(1) 協同学習の推進

① 聴き合う関係をつくる。「話す」より「聴く」

- ・ 机をとなりとくっつける。
- ・ 1時間の授業の中に、必ずペアやグループでの活動を取り入れる。
- ・ 教師がしっかり聴く。教師の発言や説明はできるだけ少なくする。喋りすぎない。



木太中 協同学習の約束

- 1 私語はしません。
友達の意見や先生の話をよく聴きましょう。
- 2 机をぴったりくっつけます。
ペアやグループで活動しやすい環境にしましょう。
- 3 友達が「教えて」と言ったら教えます。
自分から「教えて」と言うようにしましょう。
- 4 「教えて」と言われたら、最後まで教えます。
ゆっくりじっくり相手に寄り添いましょう。
- 5 分からないことをそのままにしません。
途中で投げ出さず、根気良く取り組みましょう。

② 質の高い授業にする。

- ・ 質の高い課題を提示する。教科の本質に迫る課題（共有の課題）とジャンプの課題（深い学び）
- ・ 思考→交流→深化とつながるように、適切にペア・グループ活動を取り入れる。
- ・ 自分の言葉で表現させる。

③ なかま・社会・テキストとつなげる。

- ・ ペア活動で、隣に伝える。確認する。説明し合う。伝え合う。
- ・ グループで協力して取り組んで深まる課題を取り入れる。
- ・ 個別に指導をするのではなく、自分で「教えて」「分からない」が言えるような声かけをする。
- ・ 配慮が必要な生徒についてはグループのメンバーを考慮する。
- ・ グループでの学び合いに参加できない生徒に対して、すかさずケアをする。「○○さんはどう思う？」
〈生徒にかける言葉〉 「わからないときは周りの人に聞こう。」
「わかりにくいときは周りの人と相談してね。」
「隣の人に聞こうね。見せてもらってね。」
「隣の人と確認しようね。」
「質問されたら最後まで教えてあげよう。」
「聞かれてわからないときは一緒に考えよう。」
「周りの人みんなが分からない？」

④ 流れをテキストや授業の本筋へもどす。

- ・ 授業の振り返りの場面で、自分の言葉で表現する。
- ・ 活動が停滞しているグループに対しては教師がケアをする。

(2) 授業実践の共有・普及

① 現教推進委員会（月1回）

授業実践や研究の進捗状況についての情報交換や授業プランの検討を行い、研究を各学年団等に広めていく。

② 現教だよりの発行（月1回）

相互に授業を参観し、参考になったことや取り入れたいこと、困っていること等を掲載し、共通理解をはかる。

③ 校内公開研究会（年間4回）

④ 授業研究週間（年間3回）

(3) より良い人間関係づくり

授業や普段の生活の中で、生徒のより良い人間関係づくりを意識した活動（ピア・サポート等）を取り入れる。また、現職教育の時間にもピア・サポートに関する研修を取り入れ、共通実践していく。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (生徒質問紙) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

指標 「①できる+②どちらかといえばできる」



指標の達成に向けた実践

(1) 円滑な授業づくりのためのより良い人間関係づくり

授業で取り入れているペアや小グループでの学習活動は、お互いがお互いを認めて支える温かい雰囲気があるからこそ、信頼し合って取り組める。そのために現教推進委員を中心として、人間関係づくりを進めている。

① ピア・サポート活動についての教員研修

夏季休業中に、ピア・サポート活動の意義や取り入れ方等について、外部講師を招き講話と演習による研修を行った。(写真A)



写真A

② 若年教員研修

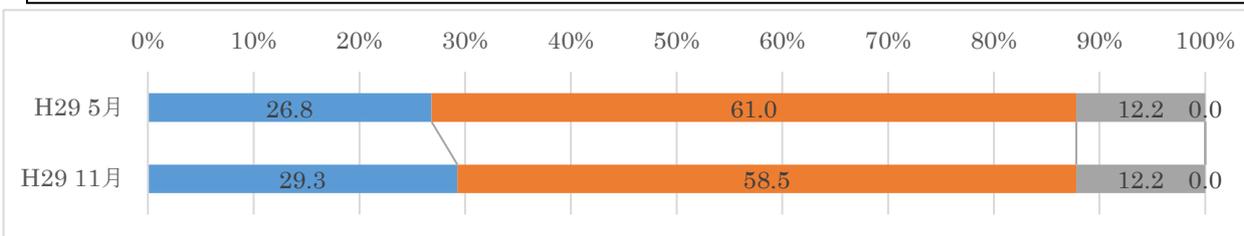
ピア・サポートに関する書籍等を参考にし、若年教員がそれぞれの学級で活動に取り組んだ。その後、実践事例を持ち寄り、行ってみて感じた効果や反省点について意見交換した。(写真B) その反省点を生かして、他の教員が同じ活動を取り入れたり、学年団に広めたりした。



写真B

(2) ペアやグループでの学習活動

(教員対象「授業に関するアンケート」) 普段の授業で生徒の学び合う場を取り入れている。



■ よく行っている ■ どちらかといえば行っている ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

教員が意識的に学び合いを取り入れることで、授業での生徒同士の関わりが増え、お互いの意見を聴き合う関係が築かれていったのだと思う。大半の教員が、日ごろから授業の中にペアやグループでの学習活動を取り入れており、生徒も協力して課題解決に臨んだり、自分の考えを伝えたりすることに抵抗なく取り組んでいる。

2 (生徒質問紙) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえばできている」



3 (生徒対象「授業に関するアンケート」) 友だちに教えてあげたり一緒に考えたりすることで、自分の理解も深まりましたか。

指標 「①できている」



指標の達成に向けた実践

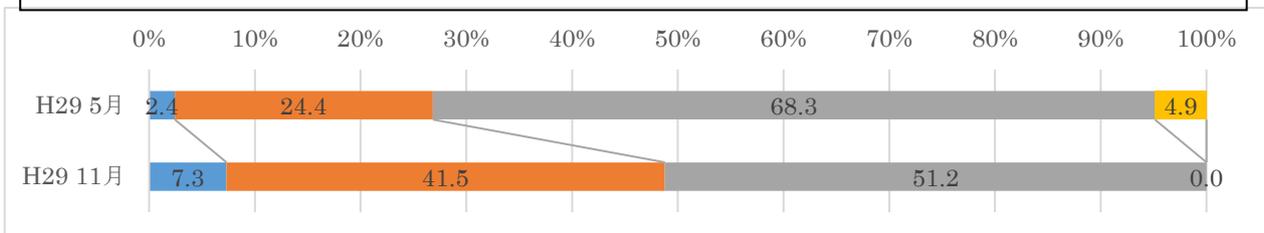
(1) 質の高い課題の提示

教科の本質に迫る教科書レベルの共有課題と、教科書レベルを超えた、深い学びにつながる難易度の高いジャンプ課題を提示する。グループで一緒に課題解決に向けて取り組むことで、(写真C) 自分の考えが深まったり、新たな気づきが生まれたりすることを促した。



写真C

(教員対象「授業に関するアンケート」) 共有課題とジャンプ課題を設定していますか。



■ よく行っている ■ どちらかといえば行っている ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

二段階の課題設定を行うように、教員の意識が変容してきたことで、より質の高い課題が提示され、生徒もそれに対して意欲をもって取り組めるようになったのではないかと考えられる。

生徒の実態に応じた学習課題となるように、教科部会でどのような課題を設定するか話し合ったり、教科や学年団の枠を超えて編成した小グループで課題設定の視点について意見交換をしたりして、教員研修を深めている。(写真D)



写真D

◆特徴的な取組

授業研究週間

全教員が授業を公開し、相互評価することで授業改善につなげる機会として、各学期1週間ずつ、年間計3週間行っている。

(1) 取り組み方

公開について

- 1人3時間以上公開する。
- 授業プランを作成する。

参観について

- 2時間以上参観する。
- 授業参観カードを提出し、授業者に返す。



授業のようす

1	日 月	平成29年 6月 9日 (水)	16時 30分～18時 30分	授業者
2	単 元	化学変化とイオン		
3	ね ん	(1) 身近な材料や身の周りの環境に起きている化学変化を、それを化学反応式で表すことができる。 (2) 本物質に電流を通じたときに起きている化学変化を、それぞれの物質のイオンの動きを調べることができる。		
4	授業の経緯	① 学習の進捗が学習目標に到達しているかどうかを確認し、必要に応じて指導を行う。 ② 既習事項の確認を行い、授業の導入を行う。 ③ 授業の展開として、身近な材料や身の周りの環境に起きている化学変化を、それを化学反応式で表すことができる。	グループ	① グループ ② グループ ③ グループ
5	授業の振り返り	① 授業の振り返りを行い、授業の進捗を確認する。 ② 授業の振り返りを行い、授業の進捗を確認する。	個人	① 個人 ② 個人

5月 8日 (月)	3校番 第1	参観者 ()	授業者 ()
授業を参観しての感想など ① 授業が非常に面白かった。先生が丁寧な説明をしてくださったので、授業が面白かった。授業の進捗を確認することができた。授業の進捗を確認することができた。 ② 授業の進捗を確認することができた。授業の進捗を確認することができた。授業の進捗を確認することができた。授業の進捗を確認することができた。			
ありがとうございました。			

授業参観カード

授業プラン

〈授業参観カードに書かれてある感想の例〉

- 資料を回収しながら、参加できていない生徒へのさりげないケアがあり、早めの対処が大切だと感じた。
- 自分の将来に置き換えて考えることで、自分の意見から日本の将来を考えることができていた。身近な題材は大切だと感じた。
- 既習事項の確認で、誰かが答えるのを待っている生徒がいたが、「当たったら困る人は？」という一言でみんなが一斉にノートを見直し始めていて、すごいと思った。

(2) 授業改善への活かし方

授業研究週間を終えた後、現職教育の時間に小グループでの協議を行っている。(写真E) 教科、学年団を超えて授業について意見を交流する機会を設けることで、授業づくりの新たな視点に気づくことができる。

協議の内容

- 授業を実践しての反省点や課題
- 授業づくりの上で現在困っていること
- 他の教員の授業を参観して学んだこと



- 授業改善に取り組む意識づけ
- 授業参観で気づいたことや学んだことの普及
- 実践事例の蓄積



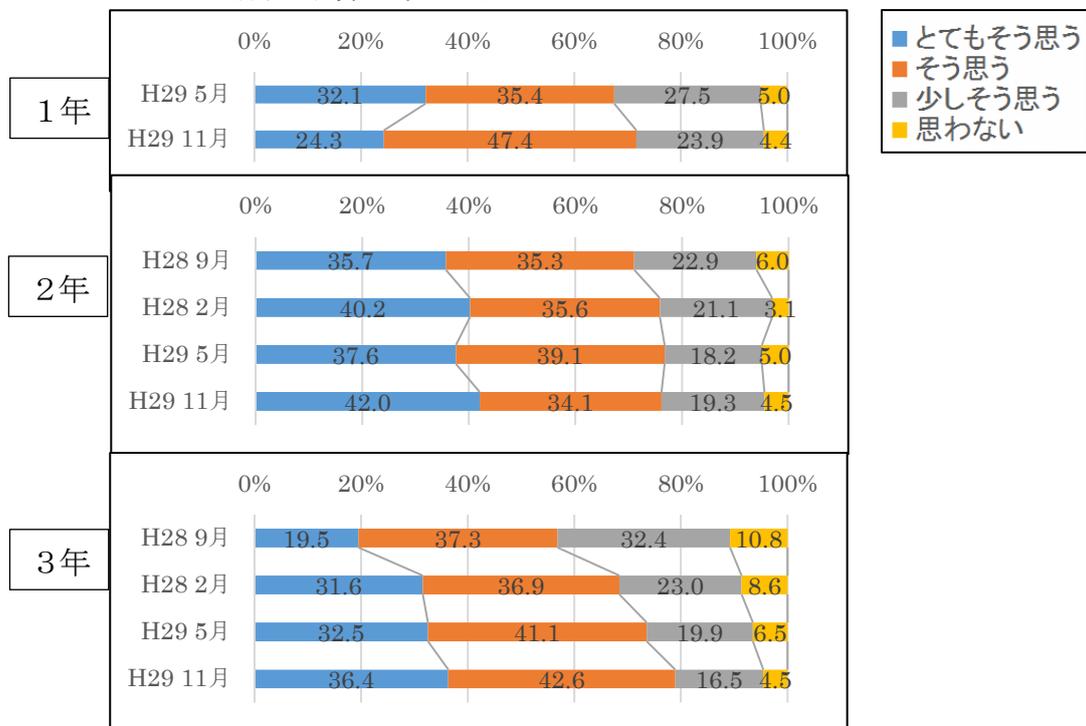
写真E

IV 研究の成果と課題

◆成果（達成状況）

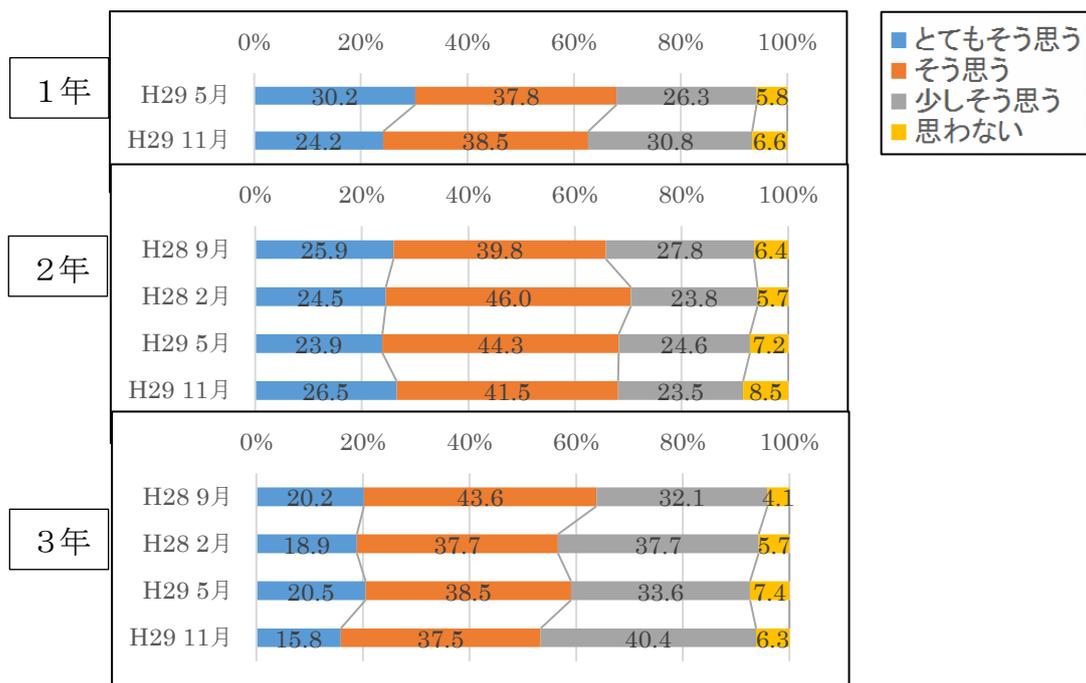
生徒対象「授業に関するアンケート」及び、教員対象「授業に関するアンケート」の結果より

(1) ペアやグループでの活動で自分の考えが深まりましたか？

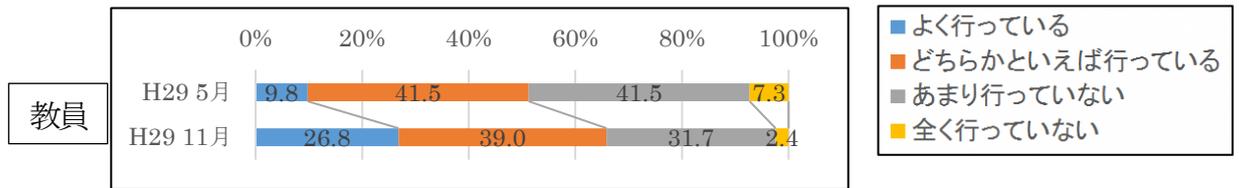


どの学年も、授業の中で考えの深まりを実感できる生徒が増えている。特に、3年生は、1年前と比較すると肯定的な回答が20ポイント以上増加した。また、「思わない」と回答していた生徒が1年前と比較すると半減していることから、友だちと一緒に課題に取り組むことで、それまで受動的に授業に参加していた生徒が主体的に取り組めるようになったのではないかととらえている。

(2) 自分の考えを自分の言葉で書いたり話したりできますか？



(3) ふり返りの場面で、自分の言葉で表現させていますか？



自分の言葉で表現することを苦手だと感じている生徒が多く、その割合が増加している。全国学力・学習状況調査の「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいとおもいますか。」という質問項目についても、「当てはまる」や「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国や香川県の平均を上回っている。

しかし、教員は、自分の言葉で表現させる場面を意識的に多く取り入れていることがアンケート結果からもうかがえる。自分の言葉で表現する機会は増加しているが、生徒は「できている」という気持ちに至っていないので、単に場面を設けるだけでなく、いかに生徒に意識づけを返していくかを考える必要があると思われる。

生徒の発言や記述について、友だちから意見や感想をもらう機会や、教員からの「そんなことに気がついたんだね。すごいね。」等、周囲からの評価を返すことができれば、自信をもって表現できるのではないかと考えている。

◆課題とこれからの取組

これまでの取組の中で生徒同士の関係性は随分良くなってきたが、まだ、グループに入れられない生徒や、課題と向き合うことができずに私語をしたり、他のことをしたりして逃げてしまう生徒がいるのが現状である。また、授業の中で自分の考えの深まりは実感できているが、それを自分の言葉で表現できているという自信ももてていない。

生徒がそのような課題を抱えているのは、次のような教員の課題が挙げられる。

授業改善に取り組んでいるが、教員だけがやっているつもりになってしまって、生徒が楽しいと思う授業には至っていない。また、提示した課題の難易度が低すぎたり、生徒が何について考えればよいのかわからないものであったりと、生徒の実態に合ったものになっていない。

したがって、これまで以上になかまづくりを推進し、どの生徒も一緒に学ぶ温かい雰囲気を一層築いていく。そして、生徒をよく観察して適切なケアをすることで、生徒が授業の中で置き去りになることのないようにしていく。また、質の高い学習課題について研究を深め、生徒が学びたい、考えたいと思うような意欲をかきたてる学習課題を提示する。

そのために、校内公開研究日や授業研究週間の授業では、全員が同じ視点に重点をおいて授業をデザインし、相互に評価し合うことで、設定する課題の質や生徒への声かけの仕方等、具体的な授業改善につながるようにしていきたい。さらに、3年間を通してのなかまづくりのあり方について、現教推進委員会を中心に検討し、継続的に関係性を高められるような活動を取り入れていきたい。